

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

ベーシックインカム概論

0、はじめに

- 1、現行制度の矛盾とその代替案としてのベーシックインカム
- 2、ベーシックインカムの哲学的考察
- 3、ベーシックインカムへの批判の批判
- 4、ベーシックインカムの応用～税制との関係
- 5、結びにかえて

0、はじめに

ベーシックインカムの理解

- ・「日本では」ほとんど知られていないベーシックインカム
- ・現行の「労働」概念のラディカルな見直し

来週のための勉強会

1、現行制度の矛盾とその代替案としてのベーシックインカム

1-1、現行制度(福祉国家)の矛盾

福祉国家：完全雇用を前提にする

<福祉国家の黄金時代>

◇「働く者」は社会保険料を支払い、もしもの場合に備える。「働いていない者」は「働きたいけど働けない者」を選別し、公的扶助を与える

BUT 現行の制度では完全雇用が実現しないままである

⇒【失業者△→生活保護の受給△→世論の反感→スティグマ】

さらに、たとえ完全雇用が達成されたとしても賃金労働中心の福祉国家では障害者や高齢者、主婦は潜在的にスティグマを抱え続ける

△ベヴァリッジ報告：公的扶助は一時的なもの

⇒代替案としてのベーシックインカム

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

<福祉国家の危機>

1-2、ベーシックインカムとは

「ベーシックインカム白書」(アイルランド政府 2002年)における定義

- ①個人に対して、どのような状況におかれているかに関わりなく無条件に支給される。
- ②ベーシックインカム給付は課税されず、それ以外の所得は全て課税される。
- ③望ましい給付水準は、威厳をもって生き、実際の生活において選択肢を保障するものでなくてはならない。その水準は貧困線と同じかそれ以上として表すことができるかもしれないし、「適切な」生活水準と同等、あるいは平均賃金の何割、といった表現となるかもしれない。

Cf.日本国憲法第25条「健康で文化的な最低限度の生活を送る権利」

★金銭で、定期的に、国家または他の政治的共同体(地方自治体など)によって、個々人に、資力調査なしに、稼働能力調査なしに給付される

△「調査なしに」・・・現行の生活保護(公的扶助)の捕捉率の低さ

2、ベーシックインカムの哲学的考察

2-1、賃金労働中心への懐疑

現行体制は賃金労働中心の考え方に基づいている

そのため、現行体制では主婦労働などは労働とはカウントされない

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

● 「活動」と「労働」の区別 (ハンナ・アレント)

「活動」・・・公的共同体への関わり⇒人間らしさ

「労働」・・・生活に不可欠なこと

Cf.古代ギリシャのポリス/ギルド社会

2-2、共産主義のオルタナティブとしてのベーシックインカム

普通の共産主義・・・資本主義⇒社会主義⇒共産主義

ベーシックインカムを導入した場合・・・資本主義⇒ベーシックインカム型共産主義

Cf.トロツキズム

2-3、「自由」

フロム：自由を抑圧してきたもの・・・自分に課せられた労働ならびに社会的生存の条件に服したがらないものにたいする飢餓の恐怖

⇒これはベーシックインカムで対処可能である

☆仕事への強制や脅迫がなくなれば、何もしないことを望むのは一部の病人だけになる

・生活必需品の自由消費の原則

BUT 自由消費<ベーシックインカム

3、ベーシックインカムへの批判の批判

3-1、ベーシックインカム体制下では誰も働かなくなるなか

● 現行制度こそ労働インセンティブを低めている

- ・ 公的扶助：働いている者には受給する権利がない
- ・ 年金制度：労働者層「貧しいもの」から高齢者層「富んでいるもの」への所得の移転
- ・ 「福祉官僚制」：「生の序列化」が行われ、コストもかかる
- ・ 補助金：特定の業界への給付は市場原理をゆがめる

「もし目標が貧困を軽減することであるなら、われわれは貧困者を援助することに向けられたプログラムをもつべきである。貧困者がたまたま農民であるなら、彼が農民だからではなくて貧しいからということで、彼を援助すべき十分な理由がある。すなわち、特定の職業集団、年齢集団、賃金率集団、労働組織もしくは産業の構成員としてではなく、人々を人々として援助するようにプログラムは設計されるべきである。」(『資本主義と自由』)

(フリードマン)

ミクロな回答

◇ベーシックインカムが否定するのは「飢餓への恐怖によって劣悪な賃金労働に駆り立てられる」ことである

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

各人がやりたい労働をやりたいだけやる【共産主義】

(3K労働などは労働時間の短縮や労働環境の改善によって対処できる)

マクロな回答

ガルブレイスの見解

「そもそも社会的に必要とされる労働力が減ってきているのに、そんなに働く必要があるのだろうか？」(『ゆたかな社会』1958年)

○雇用と所得保障の分離

現在の生産・・・必要以上のものが生産されているが、生産側の働きかけによって人々の欲望をかりたてて消費させる

△生産がとぼしく貧困が偏在していた過去の社会の通念に人々が縛られているため

△生産によって人々の雇用、ひいては所得が保証されるため

「雇用しえない人、困難なしには雇用しえない人、労働すべきでない人にとって直接的な解決策は生産に関係のない収入源である。これは、近年、保障所得ないし負の所得税に関する各種の提案がなされるに及んで、広く議論されるようになった。これらの提案に共通する原則は、一般的な権利としてベーシックインカムを与えるものとし、その金額は世帯の大きさに関係するが、ほかの点では必要とは無関係なものにする、ということである。職を見いだせない人はこの所得で暮らしていける。職からの所得があれば、支給額の一部は控除され、所得がある限度を超えると、逆に国に対して支払いをおこなう。」(『ゆたかな社会』)

3-2、なぜベーシックインカムは導入されないのか

アトキンソンの回答

⇒ベーシックインカムが導入されない理由＝政治的理由

△社会保障への支持と無条件給付への嫌悪感

・解決策・・・社会的貢献・参加を給付の要件とする

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

「財源は？」という問いはナンセンス

△ただの足止め目的・・・どのような政策にも財源は必要

4、ベーシックインカムの応用～ベーシックインカムと税制の関係

4-1、負の所得税(ミード)

負の所得税：所得の低いものに給付を行う

△ベーシックインカムより安上がり

☆ベーシックインカムは「個人単位」だが、負の所得税は「家族単位」となる

4-2、定率所得税派

定率所得税とベーシックインカムとの組み合わせ

Cf.限界税率「現在の所得より1円でも多く稼いだ場合に取られる税率」

・・・ようにするに限界税率が100%を超える＝それ以上稼ぐと逆に損をする

☆限界税率は労働インセンティブを阻害している

⇒定率所得税

4-3、再分配重視派

定率所得税への批判

定率所得税とベーシックインカムの組み合わせでは高所得者優遇になってしまう

4-4、消費税派

所得税や法人税廃止⇒消費税引き上げ

△法人税なども実際は商品にかかる税となる。消費税への一本化は税を透明化し、かつ市場原理を正常な形で働かせることができる。(法人税などで市場原理は歪められる)

5、結びにかえて

・労働のラディカルな見直しは面白いが、グローバル社会の中でいかに実現していくかは今後も課題となるであろう

・労働と所得が分離された状態で人がいかに働くかはあくまで想像の領域を出ない(自然状態)

2009年5月8日(金)

同志社大学政治学研究会 オリエンテーション記念講演会事前勉強会

文責/発表 法学部政治学科 2008年度生 早瀬義朗

<参考文献>

山森亮『ベーシックインカム入門』光文社新書 2009年

(レジュメ中の図表は山森 2009 からの抜粋)

【Memo】